

永遠の水のひろがり

(昭和二十七年寮歌)

村上啓司君 作歌

田畑実君 作曲

一

永遠の水の広がり
去にし全ての名残りをしるす
陽の光水の面にわたらず
厚き雲の低くたれたり
大いなる水と強き風との
須臾なる静けさ今ぞ破れん
無限の過去の名残りを無みと
今こそ吾等雄々しく立たん

二

再びす宣臂の叫び
血をもて駭りし訓えを忘る
屈辱の条文は結ばれ
時の声の高く頭る
核崩壊なる強き力は
生命と愛とを毀ち捨てなん
再び過去の犯ちせじと
今こそ吾等凜々と起たん

三

北国の樹々の直さよ
牧場の草の色の濃緑さよ
永き冬厳しき試練に
打ち耐えたる姿美わし
潮風荒べる荒磯にさえ
名もなき草木の生をば享受ぬ
自然の真理の頌歌を唱い
今こそ吾等深く究めん